

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

- (1) 事業所の名称
海上自衛隊 第1術科学校
- (2) 事業所の所在地
広島県江田島市江田島町
- (3) 業種
行政機関 (8221)

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25(2013)年度を基準年度とし、平成29(2017)年度から令和3(2021)年度までの5年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況 《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度実排出量(a)	目標年度 上段：見込量(b) 下段：削減率(c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))				
			平成25年度	平成33年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
エネルギー起源CO ₂	13,158	12,500 5%	14,191 -7.9%	14,117 -7.29%	14,276 -8.49%	12,990 1.28%	12,771 2.94%
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
温室効果ガス実排出量総計							
温室効果ガスみなし排出量							
実績に対する自己評価	燃料と電力の消費量から、CO ₂ の発生量を換算したもの。 ↓ 2.94△1.28=1.66%の改善 ↓ 燃焼効率の良い新型ボイラーの導入で、CO ₂ の排出量は減っている。 しかし、次項《原単位を削減目標とする場合》のとおり、燃料消費自体は真逆の悪化した計算結果が出ている。 (つまり、燃料消費の増加を抑え込んでCO ₂ の排出量を減少させる程、新型ボイラー触媒効果が優れていることになる⇒閑散期の復活で触媒の負荷が減ったのもある)						

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

温室効果ガスの種類	基準年度の実績(a)	目標年度 上段：目標(b) 下段：削減率(c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)、下段：削減量の対基準年度比(e))				
			平成25年度	平成33年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
エネルギー 起源CO ₂	25.25	23.99 5%	28.23 -11.79%	28.59 -13.21%	28.78 -13.97%	28.09 -11.24%	29.42 -16.51%
非エネルギー 起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
温室効果ガス 総排出量							
エネルギー消費 原単位(原油換 算kl)	4,672	4,438 5%	5,223 -11.79%	5,289 -13.21%	5,325 -13.98%	5,197 -11.24%	5,237 -12.09%
実績に対する 自己評価	<p>①「エネルギー起源CO₂」 燃料と電力の消費量をギガジュールに換算、単位を揃えて平準化した総和⇒原油量に再換算し校内施設延べ面積で割った数値</p> <p>②エネルギー消費原単位(原油換算kl) 燃料と電力の消費量をギガジュールに換算、単位を揃えて平準化した総和⇒原油量に再換算</p> <p>↓</p> <p>①の数値は16.51△11.24=5.27%の悪化、 ②の数値は12.09△11.24=0.85%の悪化 (R2年度との比較)</p> <p>↓</p> <p>1年を通して地味な上昇を起こした結果だが、GWと8月は減少している。 この数値変動のハターンは、R2はコロナ禍で学生帰省が無くなりR3が通常通りに戻った事を考慮すると妥当</p> <p>↓</p> <p>別の視点では、学生帰省が通常通りに戻り閑散期が発生しているのだから、R3年度の「全体」のエネルギー消費量もR2年度のそれより減少する筈だが、上記2つの期間以外で増加傾向にあり、全体の消費量も増加する結果となった。 なお、R3年度の入校者数はR2年度に比べて少なく、生活電力量の増加が原因とは考えにくい。</p> <p>「参考」 R2年度のMOCS入校者数は、473名 R3年度のMOCS入校者数は、493名 R2年度の1MSS入校者数は、2274名 R3年度の1MSS入校者数は、2039名</p> <p>↓</p> <p>R2年度はコロナ禍で、窓を開放して通気を良くした状態で業務が推奨された。 R3年度はその縛りが無くなり、密閉したエアコン使用が増加したため、電力消費が増加したと思われる。</p>						

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	燃料使用量を年平均1%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ボイラ分散化 ・ボイラ等の更新、効率的運転 ・給湯器等の効率的運転 ・老朽配管の更新
2	電気使用量の削減	電気使用量を年平均1%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・不要な照明の消灯 ・冷暖房時の温度設定を徹底 ・照明器具を省エネ型へ更新 ・空調機を省エネ型へ更新
3			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	水使用量の削減		<ul style="list-style-type: none"> ・節水型水栓へ更新 ・節水の呼びかけ
2	紙使用量の削減		<ul style="list-style-type: none"> ・封筒の再利用 ・用紙の裏紙使用 ・配布文書の電子化
3	環境意識の高揚		<ul style="list-style-type: none"> ・環境月間、環境週間の設定 ・環境保全に関するポスターの掲示

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。